

埼玉県のキバチ

寺山 守*

(宇都宮大学・応用昆虫学研究室)

膜翅目キバチ科に属するハチは、日本からは12種類が記録されている。幼虫は樹木を加害し林業害虫として警戒されているが、成虫においてはそれほど多くはなく、採集する機会も少ない。

今回これまでに埼玉県から記録されているキバチ3種に、埼玉県初記録種を2種加え、合計5種のキバチの記録をまとめ上げたので報告する。

Family SIRICIDAE キバチ科

Subfamily Tremecinae ヒラアシキバチ亜科

本亜科のものは全て広葉樹に寄生する。

1) *Tremex apicalis* MATSUMURA クロヒラアシキバチ

南部 (1975); 浦和, 川越市 (喜多院)。

本種の成虫は5, 6月頃に出現し、幼虫はイタヤカエデ, イロハカエデ, ソメイヨシノ, シラカシを食樹としている (奥谷, 1970)。

2) *T. nakanei* TAKEUCHI ナカネヒラアシキバチ (埼玉県初記録)

東松山市 (岩殿山), 2-VII-1972 S. Ohshima leg. (Coll. M. Terayama), 1♀。

本種の食樹として、コミネカエデ、イヌシデがあげられる (奥谷, 1970)。本種は国外には分布せず、国内における記録も非常に少ない種である。7月に出現するようである。

Subfamily Siricinae キバチ亜科

本亜科のものは針葉樹を加害する。

3) *Xeris spectrum* LINNÉ オナガキバチ (埼玉県初)

伊豆ガ岳山頂, 29-VI-1975, S. Ohshima leg. (Coll. M. Terayama), 3♂♂。

伊豆ガ岳山頂, 27-VI-1975, S. Ohshima leg.

(Coll. M. Terayama), 1♂。

大里郡川本町, 6-VI-1976, M. Terayama leg.

1♂。キバチ類の体長は著しい変化がある場合が比較的多く、本個体は非常に小型で、体長わずかに9mmしかない。

4) *Urocerus japonicus* SMITH ニホンキバチ

大里郡川本町, 23-VIII-1972, M. Terayama leg., 1♀。

秩父群荒川村 (欠岳ふもと), 12-VIII-1975, M. Terayama leg., 1♀。

大里郡川本町, 19-IX-1976, M. Terayama leg., 1♀。

根岸 (1962); 大宮市, 5-IX-1956。

磯田 外 (1964); 蕨市, 4-VIII-1964。

南部 (1971); 飯能。

南部 (1972); 本庄市西富田, 8-VIII-1972。

南部 (1973); 嵐山町 (鬼鎖神社), 16-IX-1973。

南部 (1973); 秩父郡長瀬町 (宝登山), 1♀。

南部 (1975); 嵐山, 本庄。

南部 (1981); 寄居町 (鐘撞堂山, 山崎)。

埼玉県では最も個体数の多く見られる種類である。

5) *U. antennatus* MARLATT ヒゲジロキバチ

奥秩父連峰雁坂峠, 12-VIII-1974, M. Terayama leg., 1♀。

雲取山 (1850m地点), 7-VIII-1977, M. Terayama leg., 1♂1♀。

雲取山 (1850m地点), 8-VIII-1977, M. Terayama leg., 1♀。

前白岩山, 26-VII-1978, M. Terayama leg., 1♂。

磯田 外 (1964); 白岩山~雲取山, 24-VII-1979。

南部 (1980); 奥秩父, 15~30-VII-1979。

本種の第8腹背節の両側紋は異変がある (図1)。寄主としてはモミ、ウラジロモミ、アオモリトドマツ、アカトドマツ、エゾマツ、スギがあげられている (奥谷, 1967)。

* Mamoru Terayama: On the Siricidae (Hymenoptera) of Saitama Prefecture, Japan.

埼玉県における分布状況

クロヒラアシキバチはこれまでに二例の報告しかなく、ナカネヒラアシキバチは東松山市から1♀のみがえられている。ニホンキバチは埼玉県産キバチ5種の中で、最も多く見うけられ、平野部から低山帯にかけて分布している。オナガキバチも同様に平野部から山地帯に分布している。それに対して、ヒゲジロキバチは、標高1700m以上の亜高山帯からのみ採集されており(図3)、シラビソアオモリトドマツ林の分布とよく一致している。それ故、本種の分布は、気候要因とともに、食樹の分布によって制約を受けていると思われる。アオモリトドマツを主な寄主としていると考えられる。生息地においてはそれほど少なくはないようである。

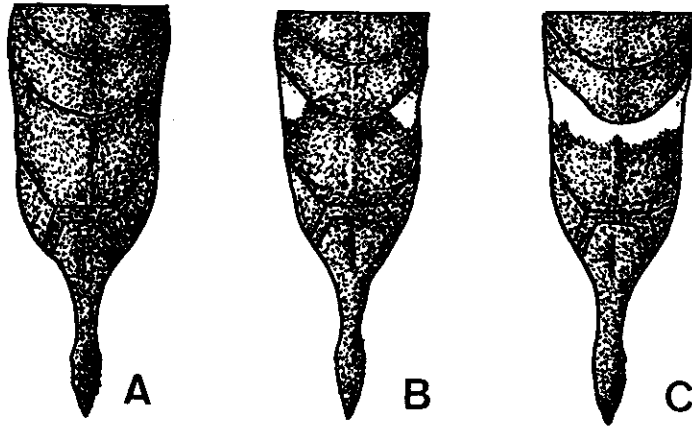


図1 ヒゲジロキバチ 雌における第8腹節の斑紋の変異
A; 斑紋を欠く個体 B; 二紋の個体 C; 左右の紋が融合して帯状になった個体

参考文献

磯田洋二・大森潤一・横溝進一・中村一男・石川嘉寿(1964) 埼玉県産昆虫類調査報告(1) Pteris

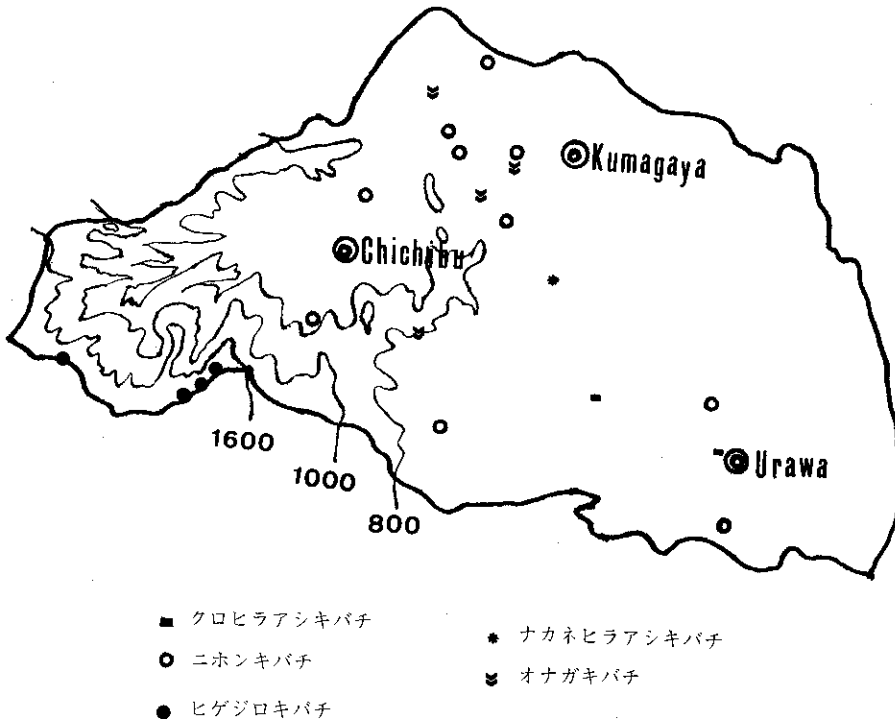


図2 埼玉県におけるキバチ類の分布

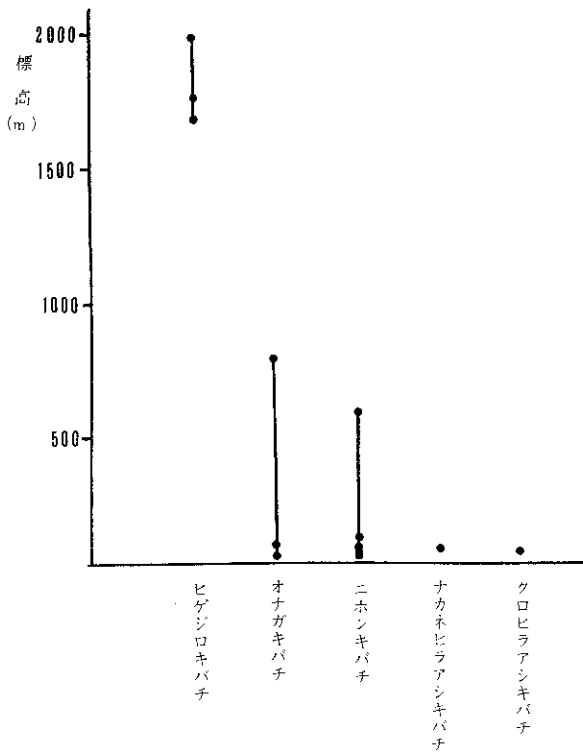


図3 埼玉県におけるキバチ類の垂直分布

(蕨高校生物クラブ機関誌) Vol. 5; 17~33

奥谷禎一 1967 日本産広腰亜目(膜翅目)の食草 (I) 応動昆 11 (2): 43~49

—— 1970 日本広腰亜目の食草 (III) Ibid., 14 (1): 25~28

—— 1970 日本の広腰亜目(ハバチ, キバチなど)

I 昆虫と自然 5 (8): 16~19

—— 1971 日本の広腰亜目 II. Ibid., 6 (12): 17~19

近藤光宏・三宅宗夫 1974 ヒラアシキバチの生態断片 昆虫と自然 9 (14): 15~18

——・—— 1976 岡山県の広腰亜目 その2 すずむし No. 113: 1~13

竹内吉蔵 1962 膜翅目・キバチ科 日本昆虫分類図説 Ser 2 Part 4: 12pp

南部敏明 1971 埼玉県動物誌基礎調査調査報告・膜翅目 57~63

—— 1972 埼玉県動物誌仮目録 第2集・膜翅目 86~92

—— 1973 埼玉県動物誌仮目録 第3集・膜翅目 147~154

—— 1973 宝登山・長壽の蜂 埼玉県立児玉高等学校研究集録 No. 4: 51~59

—— 1974 埼玉県動物誌仮目録 第4集・埼玉の蜂 49~82

—— 1978 埼玉県の蜂 埼玉県動物誌(埼玉県教育委員会) 177~211

—— 1980 浦山流域動・植物総合調査報告・膜翅目 埼玉生物 20: 98~99

—— 1981 寄居町の膜翅類 寄居町の自然(動物編)(埼玉県大里郡寄居町教育委員会) 51~68

根岸孝康 1962 埼玉県生物相第一次仮目録・蜂

FAMILY (浦和高校生物部部誌) Vol. 14: 26~69

グリーンブックス

89 昆虫用語小辞典

小笠原英明 著
春田俊郎

昆虫図鑑や昆虫雑誌などを読む時、意味のはっきりしない用語に出会うことがある。そんな時、手軽に調べてみる事ができるのが、本書である。分類・形態・生態・生理・遺伝など広い分野に渡って主要419項目を収載。

B6 120頁 口絵6頁 図30/ ¥750 千350



ニュー・サイエンス社